登場人物

サチ（２９）　吉岡サチ。笑顔生命保険の社員。多重人格障害を隠して生きる。

お嬢（１２くらい）　サチの人格の一人。

おじき（４０代前半）　サチの人格の一人。香坂純二を模した人格。

ポチニャン（年齢不明）　サチの人格の一匹。犬のような猫のような動物。本物のサチの人格が姿を隠して化けている。

本物のサチ（２９）　主人格。多重人格障害になる前のサチ。

ワトソン（２６）　渡瀬光。サチの後輩。通称ワトソン。

サチの母（５０代後半）　名古屋在住。

優太（２６）　サチの弟。名古屋の刑務所に服役中。

黒川（４０代前半）　サチの上司の女性。課長。

スチュアート（見た目年齢２０代後半）　ネオＡＩ社のＡＩ社員。

香坂（４０代前半）　香坂純二。サチが名古屋支店時代に親しくしていた別部署の上司。

社員の男１（３０代前半）　サチと同じチームの同僚。

社員の男２（３０代後半）　サチと同じチームの同僚。

社員の男３（４０代前半）　サチと同じチームの同僚。

アナウンス　新幹線の車内アナウンス。

機会の声　スマホの留守電再生を告げる声。

少年の声（５）　新幹線内で姉を追う少年の声。

看守の声　優太の収監されている刑務所の看守の声。

社員の声　笑顔生命保険名古屋支店の社員の声。

サチの部屋（ワンルームの社宅）。
ローテーブルの上にノートパソコンとコーヒーのマグカップが置いてあり、お嬢、おじき、ポチニャンはその周りでそわそわしている。
お嬢は十二歳くらいの少女、おじきは四十代前半男性。ポチニャンは動物で、犬のような猫のようなお面を顔につけていて、役者の顔は見えない。
上はブラウス、下はパジャマのズボンを履いたサチ、上手から走って登場しつつ、

サチ　ああああ、まずいまずい、遅刻遅刻！

パソコンの前に滑り込むように座り、マウスを操作する。

お嬢　さっちゃん、あと二分よ。
ポチニャン　にゃわん。
おじき　出勤簿はデスクトップの右上のショートカットな。

サチ、マウスをカチカチとクリックして、

サチ　ギリギリセーフ。
ポチニャン　にゃわん。
サチ　ありがとみんなぁ。
お嬢　ありがとじゃないわ。なんで毎朝ギリギリなのよ。
おじき　（お嬢へ）まあまあ、お嬢。出社する日は割と早く着くだろ。
お嬢　（おじきへ）そうねえ！　さっちゃんの代わりにあたしがお化粧も着替えもするし、おじきが駅から会社まで走るものねえ！
サチ　いやぁ、お嬢とおじきには感謝しかないよぉ。

ＳＥ　ビデオ通話の呼び出し音。

サチ　あ、黒川課長だ、なんだろ？　臨時の朝礼？

サチ、パソコンで応答。お嬢、おじき、ポチニャン、サチの後ろから画面を覗く。
黒川（女性）、社員の男1、社員の男2、社員の男3、登場。全員リモートワークのため、それぞれパソコンに向き合っている。

黒川　みんな、おはよう。
サチ　（超元気に）おはようございます！
社員の男たち　（それぞれに）おはようございます。
黒川　突然呼び出してごめんなさいね。今日からうちのチームに新しい子が来るから、紹介したくて。今呼ぶわね。
サチ　（ワクワクしてお嬢たちへ）新しい子？

ワトソン、登場。中性的な男性で、顔は黒い布で隠されていて見えない（ウェブカメラをオフにしている表現）。

黒川　彼は渡瀬くん。事情があって、入社一年目の冬から三年近くお休みしてたんだけど、十月一日づけで復帰することになったの。みんな、これからいろいろサポートしてあげてね。

サチ、ワトソンのカメラがオフなことを訝しみつつ聞いている。

ワトソン　はじめまして、渡瀬といいます。今年、入社四年目で、一年目のときには営業部にいました。よろしくお願いします。
サチ　渡瀬さん、カメラオフになってますよ。顔が見えてないです。
黒川　吉岡さん、いいの、彼はこのままで。
サチ　えー顔見たい！
黒川　そうそう、大事なことを言ってなかったわ。渡瀬くんは入社四年目とはいえ、実質一年目の途中までしか働けていないの。
サチ　（ワトソンへ）見してくださいよ、ちょっとだけ。
黒川　だから、今年度末までの間、渡瀬くんに教育係をつけることにしました。

サチ　もしかして、前髪切り過ぎちゃったとか？

黒川　吉岡さん、あなたをです。

サチ　はい？

黒川　今日からあなたが渡瀬くんの教育係です。

サチ　へ？

黒川　適当に決めたわけじゃないわよ。

サチ　私が教育係？　教育係って同性で年の近い人がなるんじゃないんですか（社員の男1を見つつ）？

社員の男1　（サチの視線に気づいて）いや、わたくしですね、こう見えて入社十年目ですので、そんなに年は近くないのです。

サチ　十年目？　え、そんな年いってるんですか？

社員の男2　吉岡ちゃんは何年目だっけ？

サチ　七年目です。

社員の男2　じゃあ俺らん中で一番近いじゃん。

サチ　確かに。

社員の男3　キャラクター的にも、吉岡さんが適任です。話しかけやすさでいったら、我がチーム随一ですから。

サチ　（照れて）えーっ、褒められると伸びるタイプですぅ。

サチ、照れたまま自分の世界に入ってニヤニヤしている。

黒川　じゃあ、そういうことだから、よろしくね。はい、臨時朝礼はこれで終わります。今日も一日頑張りましょう。

黒川退場。

社員の男1～3、退場。

サチ、ふと我に返る。

サチ　渡瀬さん、これからよろしくお願いします。あの、（発音しづらそうに）わたすさ、わたっ、わた

す、（考えて）んー……わ・と・そ……渡瀬さんって言いづらいんで、ワトソンって呼んでもいいですか？

ワトソン　駄目です。

サチ　おおっ、強めの返し。もしやワトソンって――

ワトソン　だから駄目ですって。

サチ　ツンデレ？　いや、ツンツンツンデレくらいかな。

ワトソン　いや、この短い時間でいつデレたていうんですか。

サチ　ツンツンツンの方は否定しないんだ？

ワトソン　っていうかタメ口に切り替えるの早くないですか？

サチ　ワトソンって変わってるって言われない？

ワトソン　そりゃこっちの台詞ですって。僕、やることあるんで失礼します。

黒川、登場。

ワトソン、退場。

黒川　ああ、ごめんね、仲良く話してるところ。

サチ　いえ、たぶん今フラれました。

黒川　あ、そう……あのね、言い忘れたことがあって。

サチ　なんです？

黒川　吉岡さん、来週、京都に出張してほしいの。

サチ　出張？

黒川　ええ。ネオＡＩ社ってところでね、ＡＩによる完全制御型次世代マイページシステムのプロトタイプが発表されたの。それで、アポ取りだけしてあるから、説明を聞いてきてほしいってお願い。別の人に頼む予定だったんだけど、都合がつかなくなっちゃって。

サチ　へえ。いいですけど、でも、私まだ一人で会社訪問したこと無いんですよね。

黒川　そうよね。でも大丈夫。ネオＡＩ社の担当さんは、若い社員が役職者を連れずに来たからといってぞんざいに扱うような（意味深に強調して）「ヒト」じゃないの。

サチ　はあ。

黒川　それに一人じゃないわよ。渡瀬くんと一緒に行ってもらうから。

サチ　ワトソンと？

黒川　わ、ワトソン？　（独り言で）……まあいっか。渡瀬くんには私から話しておくわね。

サチ　はあ。

黒川　それじゃあ、よろしく。

黒川、退場。

ウェブ会議が終わる。

お嬢、サチに寄り添う。おじき、離れて煙草を吸い始める。ポチニャン、犬猫のようにくつろぐ。

お嬢　不安なの？　大丈夫、さっちゃんにはあたしたちがいるじゃない。

サチ　お嬢……。

おじき　そーそ。いざとなったら俺が交代するからさ、気軽に行こうって。

サチ　おじき……。

ポチニャン　にゃわん。

サチ　ポチニャン……可愛い……。

お嬢　（おじきに向かい）でも、おじきは要注意よ。この前、さっちゃんが新宿駅で変なおじさんにぶつかられたとき、おじきったら急にさっちゃんと入れ代わって、相手のおじさんを後ろから蹴とばしたんだから。

おじき　ああ、あれは俗にいう「ぶつかりおじさん」だよ。若い女性ばかりを狙ってわざとぶつかるってね。そりゃ懲らしめないとでしょ。

お嬢　そうだけど、蹴ったりしたら、さっちゃんが暴行罪で捕まっちゃうわ。あのあと、あたしが無理矢理交代して走って逃げなきゃどうなってたか。ねえポチニャン。

ポチニャン　にゃわっ……にゃわん。

サチ　（宥めて）まあまあ。あのときは二人のおかげで助かったよ……たぶん。覚えてないけど。

ＳＥ　サチの私用スマホのポップな着信音。

サチ　もしもし、ママ？

サチの母、登場。

サチの母　ああ、さっちゃん、お仕事中にごめんね。そっちに野菜とかいろいろ送ったんだけど、日づけ指定間違えちゃって、今日の午前中に届くの。ごめんね、土曜日にしようと思ったんだけど。

サチ　わーい、ありがと。野菜？　卵は？

サチの母　もちろん、入れておいたわよ。いつものヒゲのおじちゃんとこの、名古屋コーチンね。

サチ　やったー、やっぱ卵はおじちゃんとこのコーチンだよね。東京の卵って、なーんか味が薄い気がしてさ。何作ろっかな。まずは卵かけご飯でしょ、あとは目玉焼き、出汁巻き玉子、オムレツ、いや煮玉子、煮玉子だ！　名古屋コーチンで煮玉子って絶対美味しいじゃんね。今流行りの『悪魔のなんちゃら』みたいなレシピでさ――

サチの母　ねえ、さっちゃん。

サチ　ん？

サチの母　元気にやれてる？　困ってない？

サチ　元気元気。別に困ってないよ。

サチの母　お嬢とおじきと、ポチニャン？　だったわよね。その人たちとは上手くやれてるの？

サチ　うん、まあまあ。お嬢もおじきも変なことしないし、いつも相談乗ってくれるし。あとポチニャンはいつも可愛い。

サチの母　そう。ごめんね、電話するたびにこんな心配して。お母さんね、さっちゃんみたいな人のこと、もっと勉強しようと思って。

サチ　うん、ありがと。

サチの母　いつかさっちゃんが、元のさっちゃんに戻れるように。あの事件が起こる前の、元のさっちゃんに。

おじき　「元の」ねえ……。

お嬢　あたしたちを人格統合するって話？

おじき　まあ、それが一番いいのかどうか、人によるんだろうがね。

お嬢　なんにもわかってないわ。さっちゃんに必要だから、あたしたちが生まれたのに。あの事件のとき……あの瞬間、あたしが生まれなかったら、全部の苦しみを、さっちゃん一人が背負うことになってた。

おじき　そうだな。

お嬢　おじきだってそう。おじきがいなかったら、さっちゃんはまた、変な男に引っ掛かってたかもしれない。

おじき　ああ。

お嬢　それを、人格統合だなんて。さっちゃんは一人に戻って、生きていけるの？

サチ　ママ、私ね――

サチの母　ママじゃない……昔みたいにまた「母さん」って呼んでほしいの、さっちゃん……。

ＳＥ　サチの仕事用スマホの着信音（マナーモードのバイブ音）。

サチ　あ……ごめん、仕事の電話来ちゃったから切るね。

サチ、母との通話を切り、仕事の電話に出る。

サチ　はい――

ＳＥ　玄関チャイムの音。

サチ、焦る。

サチ　（電話口へ）今手が離せないんで置き配お願いします。え？　あ間違えました。

ＳＥ　玄関チャイムの音。

サチ、さらに焦る。

サチ　（玄関へ）はい、笑顔生命保険の吉岡です！　あ、違います、置き配お願いします！　置き配で！

（電話口へ）すみません、笑顔生命、あ、聞こえてました？　吉岡です。

ＳＥ　玄関チャイムの音。

サチ　もうっ、置き配って言ってんじゃん。

サチ、玄関へ行こうとしてコーヒーのマグカップを倒す。

サチ　ああああ！　コーヒーこぼれたあああああ！　（電話口へ）あのっ、ご用件なんでしたっけ？　お急ぎですか？　（玄関へ）今出るんで待っててくださーい！　ちょっと今裸でーす！

ＳＥ　上の階の住人に床ドンされる音（ドンッ）。

一瞬置いて、

ＳＥ　床ドンされる音が3回（ドンドンドン）。

サチ　天井を見上げて固まり、

（電話口へ）あ、いえ、服は着てますのでご心配なく。

暗転。

ＳＥ　新幹線の扉が閉まる前のベル音。

サチ　あああ！　乗ります乗ります！

明転。

新幹線のホーム～車内。

スーツ姿（下はスカート）のサチ、バッグを肩に掛け、キオスクの紙袋を持ち、キャリーケースを引いて走りながら登場。胸ポケットには仕事用スマホが入っていて、インカメラの部分が正面を向いてサチの見ているものを映している。片耳にはイヤホンを差している。

サチ　間に合った……！

ＳＥ　新幹線の出入り口扉が閉まる音。

サチ、新幹線に滑り込むように乗り込む。

サチ、座席を探して座る。

ワトソン、登場。顔は黒い布で隠されていて見えない（以降、ずっとそう）。

ワトソン　いい大人が駆け込み乗車なんてあり得ませんよ。映像もガタガタ揺れるし、酔うかと思いました。

サチ　（胸ポケットのスマホを調整しながら）あ、ちゃんと映ってる？　こうの方がいいかな？

ワトソン　（嫌そうに）映ってますよ……というか、キオスクで何買ってたんです？

サチ　え、見たい？　（胸ポケットのスマホを取り出し、インカメラで菓子箱を映して）ジャーン、「東京バナナの皮」！

ワトソン　（嫌そうに）ああ……、最近スーパーでよく見ます。

サチ、「東京バナナの皮」を開封しながら。（開封し終えたら食べながら。）

サチ　ほんと？　じゃあ、ワトソンって東京に住んでるんだ？　だってこれ、東京でしか売ってないやつだもん。

ワトソン　いや……そうなんですか？

サチ　そうそう。やぁ珍しいな。うちの会社ってリモート勤務を推奨してるからさ、結構みんな地方に住んでるんだよね。私は社宅に入ってて家賃安いから都内にいるけど。あ、黒川課長も都内のマンション買ってるって言ってたから都内だね。でも、他の人たちはさ、北海道、宮城、愛媛だから遠くて。チームのみんなが東京の本社に集まるのは、年に二・三回って感じ。

アナウンス　ご案内いたします。この電車は、のぞみ号、新大阪行きです。途中の停車駅は、品川、新横浜、名古屋、京都です。自由席は一号車、二号車……。

サチ、黙ったままでいる。

ワトソン　吉岡さん？

サチ　え？

ワトソン　どうかしました？　急に黙って。いや、静かな方がいいんですけど。

サチ　ああ、別に。名古屋通るんだぁって思って。私、今は東京に住んでるんだけど、出身は名古屋なんだ。

ワトソン　へぇ。東京にはいつ出てきたんです？

サチ　うーん、二年前かな。もともと名古屋支店にいたんだけど、突然本社に行けってなって。

ワトソン　珍しい。

サチ　そうなんだ。別に栄転でもなくて、気づいたら異動になってた。へんなの。

ワトソン、退場。

ＳＥ　新幹線の走る音。

サチ、ぼうっと窓外を見ていたが、やがて目を閉じて眠ってしまう。

サチの夢の中。

腹に包丁が刺さって倒れたおじきの傍に手を血塗れにした優太（サチの三歳下の弟）が立っており、お嬢が少し離れたところから二人を見ている。

本物のサチの声　（詩の朗読のように）私がおこれなかったせいで、あの子が代わりにおこったのです。悪いのは私。だからどうか、あの子の人生を奪わないでください。

おじきとお嬢、退場。

ＳＥ　檻の戸が閉まるガシャーンという音。

音と共に優太、檻に閉じ込められる。

本物のサチの声　（詩の朗読のように）さようなら、さようなら。私は私をやめる。あとはお好きに。心臓の動き続ける限り、「誰か」の思うように生きて。それがせめてもの、馬鹿で弱虫でくだらない私の、引きこもりの美学。

ビジネスホテルの一室。ベッドとサイドテーブルと椅子があり、サチのスーツケースが部屋の隅に置いてある。サチの着てきたスーツはハンガーに掛けてある。サイドテーブルの上に「東京バナナの皮」の箱、椅子の上にバッグが置いてある。

私服（胸ポケットありのカットソーとジーンズ）姿のサチ、ベッドで眠っている。

お嬢、おじき、ポチニャン、サチを見守っている。

サチ、目を覚まして起き上がる。

サチ　あれ？

お嬢　おはよう、さっちゃん。あのね、さっちゃん眠っちゃったから、新幹線からホテルまで、あたしが代わりに歩いてきたわよ。

サチ　（胸ポケットに仕事用スマホを入れたスーツを着ていないのを見て）ワトソンは？

お嬢　シャワー浴びるって言って通信切っちゃった。あ、シャワーも浴びておいたから。

サチ　そっか。

ＳＥ　サチの腹の鳴る音。

サチ　お腹空いた。

おじき　もう五時過ぎてるからね。晩ご飯は？

お嬢　バッチリ決めてるわ。ね、さっちゃん。

サチ　えーっと……。

お嬢　もうっ、忘れちゃったの？　おとつい一緒に探したじゃない。醍醐駅にある、食べログ評価３．９の焼肉屋さん。

サチ、サイドテーブルの上にある「東京バナナの皮」の残りを食べながら。

サチ　ああ、「焼きや醍醐」。

お嬢　そうそう。上ミノの甘だれ漬けが最高って書いてあったでしょ。（サチがなんか食べているのに気づき）ねえちょっと。晩ご飯前にお菓子食べないで。

サチ　はは、ごめんごめん。

ＳＥ　サチの仕事用スマホの着信音（マナーモードのバイブ音）。

サチ　（驚いて）おおっ。（バッグからスマホを取り出し）あ、ワトソンだ。（電話に出て）もしもし？

ワトソン、登場。

ワトソン　渡瀬です、今いいですか？

サチ　（「東京バナナの皮」を咀嚼しながら）うん、大丈夫。

ワトソン　……なんか食べてます？

サチ　「東京バナナの皮」。

ワトソン　あー、またそれですか。明日なんですけど、通信、何時から繋ぎます？　始業時間の九時からでしたら僕は――

サチ　じゃあ九時からで。それより、ねえねえ、焼肉食べに行かない？

ワトソン　は？

サチ　出張の夜っていったら、みんなで一緒に晩ご飯でしょ。

ワトソン　え、僕現地にいないんですけど。

サチ　いいじゃん、ワトソンはおうちでお肉焼きなよ。

ワトソン　今夜はうどんの予定だったんですけど……。

お嬢、おじき、ポチニャン、退場。

京都駅。帰宅ラッシュで人々が行き交う。

ＳＥ　雑踏の音。

サチの胸ポケットには仕事用スマホ、耳にはイヤホン。

サチ　えーっと、琵琶湖線は……

ワトソン　２番線ですよ。上の案内板に書いてあるでしょう。

サチ　さっすがワトソン。

サチ、ホームの乗車位置に並ぶ。

ＳＥ　ホームの雑音。

サチ　ねえ見て、ワトソン。２番線の向かい側、０番線だよ。

フラッシュバック。

おじきの声　よく気づいたね。京都駅には1番線が無いんだよ。

サチ、おじきを探して辺りを見回すが、いないので不思議がる。

おじきの声　それと、もう一つ。京都駅の0番線のホームは、日本一長いホームだと言われていてね、その長さは――

サチ　558メートル。

ワトソン　なんです、それ。

サチ　0番線のホームの長さ。

ワトソン　（興味無さそうに）へえ。

ＳＥ　電車の通過音。

醍醐駅の外。日は落ちて、街灯が点いている。

ＳＥ　秋夜の虫の声。

サチ、辺りを見回す。

ワトソン　気をつけてくださいね、この辺、治安が良くないらしいんで。

サチ、私用スマホで道を検索して、

サチ　（下手の方角を見て）うーん、こっちかな。

ワトソン　（上手を指して）いやいや大通りから行きましょうよ。ちょっと遠回りですけど明るいですし。

サチ　えー近道しようよぉ。お腹空いたぁ。ワトソン心配しすぎだって。

スマホを見ながら下手へ歩いて退場していくサチへ、

ワトソン　ちょっと！　もうっ！

サチ、上手から歩いて登場し、下手へ歩いていく。

フードを目深に被っていて顔の見えない男（おじき）、下手から登場し、上手へ歩いていく。

サチ　大丈夫、大丈夫。Ｇｏｏｇｌｅ先生があと四分で着くってさ。

ワトソン　（怒って）はいはい、よかったですね。

サチ、謎の男と舞台中央ですれ違いながら、

サチ　あ、ワトソンって、焼肉はタン塩から食べるタイプ？　私はホルモンからいきたいんだよねー。

謎の男、足を止めてサチを振り返る。

謎の男（おじき）　さっちゃん……さっちゃんだろう？

サチ、足を止めて謎の男を振り返る。

謎の男がフードを外し、おじきとわかる。

サチ　おじき？

おじき　（涙ぐみながら）さっちゃん……ほんとにさっちゃんだ……。

ワトソン　ちょっと……知り合いですか？

本物のサチの声　カレ……イカレ（怒れ）……。

おじき　ごめん、さっちゃん。俺が全部悪いんだ。

ワトソン　吉岡さん、ねえ、この人。

本物のサチの声　イカレ（怒れ）、イカレ（怒れ）。

おじき　さっちゃんのことも、弟くんのことも傷つけた。許してほしいだなんて言わない。言えない。

ワトソン　こいつ、ヤバいんじゃないですか？

本物のサチの声　イカレ（怒れ）、イカレ（怒れ）、イカレ（怒れ）。

サチ　おじきのこと、ワトソンにも見えるの？

ワトソン　はあ？　何言って――

おじき　さっちゃん、俺を罰してくれ。

　おじき、よろよろとサチに近づいてくる。

本物のサチの声　イカレ（怒れ）、イカレ（怒れ）、イカレ（怒れ）、イカレ（怒れ）。

　お嬢、飛び出すように登場して、

お嬢　（本物のサチの声に向けて）駄目！　駄目よママ！

サチ　お嬢？

ワトソン　ヤバいヤバいって、早く逃げて！

おじき　さっちゃん……！

本物のサチの声　イカレ（怒れ）。

お嬢　（本物のサチの声に向けて）ママやめて！

サチ　ねえワトソン、どうしておじきが見えるの？　じゃあお嬢は？

ワトソン　吉岡さん、さっきから何言って――

おじき　さっちゃん！

本物のサチの声　イカレ（怒れ）。

お嬢　ママ！

サチ　ママって誰？　え？　ちょっと何これ、わけわかんな――

本物のサチの声　もういい、代われ。

暗転。

ビジネスホテルの一室（に帰ってきた）。

ＳＥ　（上手から）出しっぱなしのシャワーが浴槽を打つ音。

明転。

朝日が射し込んでいる。

ＳＥ　シャワーの音に混じり、スズメの鳴き声。

バスローブ姿で寝ていたサチ、目を覚ましてベッドから下りる。

サチ　お嬢？　おじき？　ポチニャン？

誰も出てこないことを不審に思いつつ、シャワーの音がする上手を気にして、そのまま退場。

サチの声　（上手から）うわっ、ちょっと、びしゃびしゃなんだけど。ねえ誰？　私が昨日着てた服、洗濯しようとした人ー！

ＳＥ　シャワーを止める音。

サチの声　（上手から）中途半端が一番困るんだけど。お嬢？　お嬢がやった？　それともおじき？　焼肉臭くなったから洗ったってこと？

スーツに着替えたサチ、上手から登場。

サチ　あれ、ていうか私、昨日焼肉食べたっけ？

サチ、置いてあった私用スマホを手に取る。

留守電、黒川課長からだ。

機会の声　一件のメッセージを再生します。

黒川、登場。

黒川　あ、吉岡さん？　さっき渡瀬くんから電話が来たんだけど、大丈夫？　醍醐駅で、ストーカーみたいな男と会ったんだって？　渡瀬くん、吉岡さんに通信切られて繋がらないって、すごく焦ってて。地元の警察には渡瀬くんから通報しているみたいだけど。

サチ　通報！？

黒川　とにかく、これ聞いたらすぐ私か渡瀬くんに連絡して。明日の始業時間になっても連絡が取れなかったら、捜索願を出すからね。

サチ　捜索願！？　えーっ、待って待って。

サチ、私用スマホで黒川へ、仕事用スマホでワトソンへ同時に電話を掛け、両耳にスマホを当てる。

ＳＥ　２つの電話のコール音が一回鳴り、２つの電話が繋がる音（２つの電話がどちらもワンコールで繋がった）。

サチ　（申し訳なさそうに）あ、吉岡ですー……。

ワトソン、登場。

黒川とワトソン、同時に、捲し立てるように。

黒川　連絡が遅いわよ！　私昨夜から今までずっと起きてて、もう今まさに警察に駆け込むところだったんだから。もうっ、心配させないで。ただでさえあなたはおっちょこちょいで、へらへらしてて、変な男に誑かされそうな雰囲気してるし――

ワトソン　連絡が遅いです！　大体、あんな不審者を目の当たりにして「知り合いだから大丈夫」って納得できると思いますか？　こっちがどれだけ電話しても出ないし、っていうかスマホの電源切って

ましたよね？　なんなんですかアイツ。ヤバすぎでしょ――

サチ　（二人の声を掻き消すくらい大声で）わあああ、すいません、すいません！　とにかく吉岡は無事でしたあああ！

サチ、下手へ逃げるように走って退場。

黒川とワトソン、呆れた様子で肩を竦めて退場。

嵐山駅前。

観光客で賑わっており、奥に見える山々は美しく紅葉している。

ＳＥ　観光地の雑踏。

サチとワトソン、登場。

二人は嵐山にあるネオＡＩ社に歩いて向かっている。

ワトソン　昨夜からのことを引きずっていて不機嫌そうにしている。

サチ　対してサチ、けろりとして、たい焼きを食べ歩きしている。

ワトソン　これ美味しい。ワトソンにも買って帰るね。

サチ　いえ結構です。

ワトソン　ふうん、しょっぱい系の方が好き？　さっきコロッケも売ってたよ。

サチ　はは。東京に着くころには冷めてパサパサでマッズくなってるでしょうね。

ワトソン　なんだ、やっぱりワトソン、東京に住んでるんじゃん。

少しの沈黙。

サチ　あなたって、なんでそんな感じなんですか？

ワトソン　そんな感じって？

サチ　破天荒っていうか。昨夜の男の件もそうですけど。よくわからないっていうか。……僕のことワトソンとか呼ぶし。得体の知れない、顔も見せないヤツのこと。お土産だって、普通買ってこないでしょ。

ワトソン　……買ってくよ。黒川課長にも買うし、ワトソンにも買う。他のみんなには、遠いから渡せない

けど。

ワトソン　僕にだって渡せませんよ。

サチ　なんで？

ワトソン　だって……。

サチ　渡しに行くよ。もしワトソンが沖縄に住んでても。だって私、ワトソンの教育係だもん。

少しの沈黙。

サチ　そりゃ最初はさ、私教育係なんて初めてだし、私なんかが教育係でいいのかなってちょっと不安だったけど……ワトソン、良い子だし。あ、顔見せるの嫌だったら、玄関の前に置いとくよ。

ワトソン　……結構です。

サチ　あーん、そっかぁ。

ワトソン　食べ物は地べたに置くもんじゃないんで……普通に受け取ります。

サチ　……うん！

ワトソン　（照れて）あ、ほら、そろそろ見えてきますよ、ネオＡＩ社。あちらの担当者の名前、覚えてますか？

サチ　えっと、スチュー……デント？

ワトソン　そんなわけないでしょ。スチューデントって学生って意味ですよ。スチュアートさんです、スチュアート。

サチ　ああ、それそれ。

ワトソン　大丈夫ですか、もう……。

ネオＡＩ社前～エレベーター。

ＢＧＭ　琴と三味線の音楽。

ネオＡＩ社の社屋は一見ただの日本家屋にしか見えないが、地上一階が受付、その他の施設は地下に複数階層に渡って造られている。

サチ　わぁ、なんか会社っていうより、昔のお邸って感じ。

サチ、玄関チャイムを鳴らす。

ＳＥ　玄関チャイムの音。

サチ　すいませーん、十時から予約してた――

ワトソン　（サチへ）お約束をいただいていた！

サチ　（食い気味に）お約束をいただいていた、笑顔生命保険の吉岡と申します。

スチュアートの声　はい、吉岡さま、お待ちしておりました。玄関を入ってすぐのエレベーターで、地下三階までお越しください。

サチ　はーい。（ワトソンへ）地下三階？　すごくない？

ワトソン　シッ。相手に聞こえますよ。

サチ、玄関を入り、エレベーターの前に立つ。

ＳＥ　エレベーターの扉が開く音。

サチ、エレベーターに乗る。

ＳＥ　エレベーターが動く音、チーンという音、エレベーターの扉が開く音。

サチ、周りを見回しながらエレベーターを降りる。

エキシビジョンルーム。

バーチャル空間のような近未来的な空間で、椅子や机などの物理的な物は一切置かれていない。

ＢＧＭ　コンピューターの機械音。

スチュアート、登場。

スチュアート　ようこそお越しくださいました。私、営業担当のスチュアートと申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

サチ　あ、どうも。

スチュアート　本日は、弊社が先日プレスリリースを出した、ＡＩによる完全制御型次世代マイページシステムのプロトタイプをご見学されたいとのことですね。

サチ　はい。

スチュアート　失礼ですが、吉岡さまはＡＩがどういったものかご存知でしょうか。

サチ　えーっと……人工知能、ってことくらいです、かね。

スチュアート　そのとおり！　そして人工知能には様々な種類・用途があるのです。例えばこの私も、人工知能を備えた多機能型ＡＩロボットです。

サチ　え……ええっ！？

スチュアート　驚きでしょう。わかります、みなさん驚かれますから。

サチ　嘘ですよね？

サチ、スチュアートの周りをぐるりと回りつつ様々な角度から眺める。

サチ　どっからどう見ても人間じゃないですか。

スチュアート　お褒めに預かり光栄です。では、私がＡＩである証拠を見せましょう。

スチュアート、頭の上部に両手を当てて、

スチュアート　まずはこの頭蓋骨です。上がパカッとひらけるようになっていて、中身は――

サチ　え、待って、グロいのはちょっと……。

スチュアート　そうですか。（服を脱ぎながら）では胸の部分を見ていただきましょう。ここには、肉体を動かす動力源となる――

サチ　わああ！　変態がいます！　お巡りさん、ここに変態が！

スチュアート　大変失礼いたしました。前にいらした女性のお客さまが私の胸筋を見て大層喜んでくださったので、つい……。

サチ　そんなにいい胸筋なんですか？　……いやいや、公衆の面前で服を脱ぐ男は変態だって、ママが言ってました。

スチュアート　ママさまのおっしゃるとおりです、申し訳ございません。実を言うと少し……「好奇心」に負けてしまったところもございまして。

サチ　好奇心？　私がどんな反応をするか？

スチュアート　いえ、胸ポケットの中の「彼」――と言っておきましょうか――彼が、どんな反応をされるのか。

サチ　（ハッとして）すいません、別に盗撮とかじゃなくて。

ワトソン　申し遅れました、笑顔生命保険の渡瀬と申します。

スチュアート　ええ、存じ上げております。東京都からのリモート参加ですね。

ワトソン　はい。

サチ、ワトソンが「東京都から」を認めたことに驚く。

ワトソン　私の反応、ということでしたら、そうですね、そのまま黙って見ていただろうと思います。

スチュアート　そうですか。

ワトソン　ＡＩロボットを名乗るあなたが本気なのか、それとも私たちをからかっているのか、私も、知りたい「好奇心」に負けて。

スチュアート　なるほど。「好奇心」という言葉は、人間が使うと説得力がありますね。私実は、人間観察を趣味としておりまして。本日のお二人さまは大変興味深い観察対象――いえ失礼いたしました。

サチ　（こっそりワトソンへ）何この人。

ワトソン　（こっそりサチへ）やはり変態くささを感じますね。

スチュアート　丸聞こえですが。

サチ　すいません、変態さん。

ワトソン　いえ、スチュアートさん。

スチュアート　結構ですよ、気にしません。……さて、本題に入りましょうか。というより、ここで種明かしです。ＡＩによる完全制御型次世代マイページシステム、そのプロトタイプとは、ズバリ私のことなのです。

サチ　（意味がわかっておらず）はあ。

スチュアート　おや、あまり驚かれませんね。まあ、言葉だけではわかりづらいでしょうから、実際にお見せいたしましょう。では吉岡さま、恐れ入りますが、私の目を五秒間見つめていただけますか。

サチ　まばたきありです？

スチュアート　無しです。（サチと目線を合わせて）一、二、三、四、五。はい、ありがとうございます。さあ、ここからです。今から吉岡さまのマイページをこちら（舞台中央奥）に表示させます。ストーリーはこうです。吉岡さまは今日、御社、笑顔生命保険のお客さまとして養老保険に加入すべく、営業社員と会いました。そこで吉岡さまは保険のプランをいくつも紹介され、保障内容を決め、保険金額と毎月の保険料、保険の期間を決め、保険金の受取人を決め、契約の注意事項を長々と

聞かされます。仕方がありません、それらは避けては通れぬ道です。そして最後、契約書を書く前のタイミングで営業社員は言います。「弊社のマイページはとっても便利です。契約前の事前審査から契約後のアフターケアまで、あらゆるサービスが吉岡さま専用にカスタマイズされて提供されます。使い勝手の良さは業界随一。決して損はさせません。ぜひご登録ください」

サチ　（拍手しながら）おお、結構な長台詞を……！

スチュアート　ＡＩですので楽勝です。さて、営業社員の熱弁によりマイページに興味が湧いた吉岡さまは、早速、笑顔生命保険のホームページから、マイページへの登録を済ませます。そして初回ログインを終え、現れた吉岡さま専用マイページがこちら！

ＳＥ　何かが発表される時のジャン、という音。

文字。

舞台中央奥に、「お客さまのご契約は審査の結果、残念ながらお引き受けできませんでした。」の

スチュアート　あ、あれ？

サチ　終わりです？

スチュアート　いえ……そうか、抽出したデータがそもそも……。

サチ　データ？

スチュアート　私の目を見てくださいと言ったでしょう。あれはですね、目から吉岡さまの生体データ、つまりは健康状態の情報を抽出していたのです。それによると吉岡さまは、契約前の事前審査で謝絶となります。

サチ　えーっ、何それ。私死ぬの？

スチュアート　死にはしないと思います。ただ、死ぬ確立が高いというだけです。死ぬ確立が高い人を保険に加入させて、すぐに死んでしまった場合、保険会社は保険金の支払いで大赤字です。笑顔生命保険さまの審査基準によると、精神疾患、つまり心の病は一発アウト。なぜなら、心が不安定な人間は、自ら命を断つ可能性が高いから。仮に現在は完治していたとしても、その病気にかかったことがあるというだけで即謝絶です。そういうものです、心の病は。

ワトソン　心の病……。スチュアートさん、あなた、あること無いこと知ったかぶりして語るのはやめてください。心の病だなんて決めつけて、吉岡さんへの侮辱です。

スチュアート　私は見たままを答えただけです。信じていただけませんか。具体的には、吉岡さまは解離性同一性障害――ご自身の中に複数の人格を持つ多重人格者です。

ワトソン　嘘です。

サチ　あの、私それ、本当で――

ワトソン　真面目に取り合う必要ありません。大体、心の病の何が悪いんですか。心が不安定だと自殺するって？　必死に生きようとしてる人だっています。むしろ、そういう人が大半です。苦しい日々の中で、自分らしく生きていくために必死なんです。

スチュアート、サチの胸ポケットのスマホを五秒間見つめて、

スチュアート　なるほど、渡瀬さまが熱くなるのもわかります。そういうご事情でしたか。

サチ　何したんです？

スチュアート　渡瀬光さま。入社四年目の中堅社員でいらっしゃいますが、過去何年か休養されていましたね。その理由は、当時の教育係にあった。とても大切な秘密――その人を信頼し、ようやく打ち明けた秘密を、バラされたのです。お辛かったでしょうね。そのせいで、職場復帰後、新たに教育係となった吉岡さまを最初は信用できなかった。けれど、渡瀬さまのその氷の心を、吉岡さまの無邪気さが溶かしたのです。吉岡さまは渡瀬さまのことをワトソンと呼ぶ。そのことが渡瀬さまには心地良い。何故ならワトソンという愛称は、自分自身を……渡瀬光という自分を、少しの間忘れさせてくれるから。渡瀬さまは、自分自身が何者なのか、長い間ずっと悩んでいらっしゃる。その心がいつ生まれ、どこに属し、何を求めるのか。誰に認められ、誰を愛して許されるのか。

サチ　（話を止めようとして）あの、ちょっと――

スチュアート　自分は男なのか、それとも女なのか。……ああ、これはですね、私どもの技術が確かである証明をお見せしているんです。先ほど、ネット回線を通って渡瀬さまの目を見に行きました。そこから得た情報をお話ししています。渡瀬さまのマイページも、残念ながらお作りすることはできなそうですね。精神疾患で謝絶です。

ワトソン　いいかげんにしてください。あなたがＡＩだろうが人間だろうが関係ない。人の内側の情報を――秘密を、ぺらぺら喋ってしまえるようなやつは、最低だってこと覚えとけ。

スチュアート　人の内側に限らず、外側の情報も収集可能ですよ。加入審査時の反社チェックなどにお使いいただけます。例えば吉岡さん、私はすぐに取り寄せられます、あなたの弟さまの犯罪歴も、収監さ

れている刑務所も。

少しの沈黙。

サチ　犯罪歴……刑務所……知りませんねぇ。でも一つだけわかりました。弊社は、御社のサービスは導入しません。笑顔生命が守りたいのは、お客さまの笑顔ですから。

ワトソン、スチュアート、退場。

ＳＥ　新幹線の走る音。

帰りの新幹線車内。

サチ、座席に座って落ち込んでいる。

お嬢、おじき、ポチニャン、サチの周りでサチを心配している。

サチ　（元気無く）もう。みんな、どこ行ってたの。

お嬢　ずっと傍にいたわ。

おじき　ああ、けど顔を出せなくてね。

ポチニャン　にゃわん……。

お嬢　知ってるでしょ。あたしたち、そういう存在だもの。いつも出てこられるわけじゃないし、いついなくなってもおかしくない。いつか、こうして会うことはできなくなるかもしれないわ。

おじき　お嬢、サチに抱きつく。

だけどさっちゃん、それは俺たちがこの世から消えるってことじゃない。見えなくなっても、俺たちはずっと傍にいる。

サチ　なんか、やだな。どうして今そんな話するの？　（仕事用スマホを見て）ワトソンもあれっきり繋がらないし。なんだか悲しくなっちゃうよ。

アナウンス　まもなく、名古屋です。東海道線、中央線、関西線と名鉄線、近鉄線、あおなみ線、地下鉄線はお乗り換えです。今日も、新幹線をご利用くださいましてありがとうございました。名古屋を出

ますと、次は新横浜に停まります。

少年の声　（新幹線の連結部の方から）ねえちゃん、待ってよぉ！　なんで置いてくのぉ！　僕も一緒に降りるぅ！

サチ、ハッとして声の方を見る。少し迷い、やがて決意を決めて手荷物をまとめ始める。

お嬢　ちょっとちょっと、どうしたの？

おじき　東京まではまだ一時間半あるぞ。

サチ　会いに行く。

お嬢　えっ？

サチ　私の弟に。

ＳＥ　新幹線が止まり、出入り口扉が開く音。

サチ、バッグとキャリーケースを持って走って退場。

おじき　あ、おい！

お嬢　さっちゃん！

ポチニャン　ニャワン！

お嬢、おじき、ポチニャン、サチのあとを追って退場。

名古屋駅前。

ＳＥ　駅前の雑踏。

サチ、下手から登場。

サチの母、上手から登場。

サチ　ママ！

サチの母　さっちゃん！

二人、駆け寄る。

サチの母　帰ってくるの久しぶりね。

サチ　迎えに来てくれてありがとう。

サチの母　びっくりしたわ、急なんだもの。さあ、冷えるといけないから車に入りましょ。（移動しながら）

もう、そんな脚出して。ズボンじゃ駄目なの？

サチ　パンツスーツもあるんだけど、ちょっと太っちゃって太ももキツいんだよねぇ。

サチの母とサチ、それぞれ車の運転席と助手席に座る。

サチの母、エンジンをかける。

ＳＥ　エンジンを掛ける音。

サチの母　本当に行くの？

サチ　うん。

サチの母　辛くならない？

サチ　うん。

サチの母　電話でも言ったけど、刑務所なのよ？

サチ　……うん。会いたいんだ。会って話したい、優太と。それで、教えてほしい。私が知らないこと

――忘れちゃったことぜんぶ。

サチの母　さっちゃん……わかったわ。

サチとサチの母、真剣な表情で見つめ合う。

サチ　ありがとう……ママ。

暗転。

看守の声　面会時間は三十分以内です。私は外におりますので、終わりましたらお声がけください。

明転。

刑務所内の面会室。

サチとサチの母親、アクリル板の手前（上手）の椅子に腰掛ける。

優太、下手から登場。

優太　ねえちゃん……！

優太、駆け寄ってきて、アクリル板の奥（下手）に腰掛ける。

優太　二年振りだね。

サチ　そうかもしれない。

優太　そっか、覚えてないんだっけ。母さんから聞いてる。

サチ　ごめん。

優太　いいって。

サチ　私、ずっと忘れてた。優太のことも。自分に弟がいるってこと自体。

優太　しょうがないって。

サチ　でもね、そんな自分が嫌で、思い出したくてここに来たの。教えて、優太。あんたどうして刑務所なんか入ってんの？

優太　人を……刺したから。

サチ　殺したの？

優太　殺してない。

サチ　（ホッとしつつも複雑で）……なんで、あんたが……。

優太、話してもいいのか迷い、母の表情を窺う。

サチの母、頷く。

優太　ねえちゃんとあの男――香坂純二が出会ったのは、三年前の春。まだねえちゃんが名古屋支店で働いていたころだ。

サチの母、退場。

夕暮れ時。会社の休憩所。オレンジ色の夕日が射し込んでいる。

サチ、ノートパソコンで資料を作っているが、上手くいかずに頭を悩ませている。

サチ　うーん、なんかなぁ。

香坂（おじき）、登場。

サチを見つけてこっそり近寄り、背後から画面を覗き込む。

香坂（おじき）　よくないなぁ。

サチ　ひいっ！

香坂（おじき）　こんなところでサービス残業かい？

サチ　どちらさまですか。

香坂（おじき）　ああ、俺は、ただのおじさん。

サチ　ただのおじさんが何用で？

香坂（おじき）　いやぁ、若い子が休憩室でサービス残業してるなんて、見過ごせないと思ってね。事務室でやれば残業代が出るだろうに。

サチ　駄目です。事務室で残ってると、みんな心配して「早く帰れ、早く帰れ」って言うから。それに、先輩が仕事を代わってくれちゃったりして。ほんとは私がやらなきゃいけないのに。

香坂（おじき）　なるほど、責任感ってことか。おじさんそういうの嫌いじゃないよ。どれどれ、ちょっと見てあげよう。

香坂（おじき）、サチのノートパソコンをいじりながら、

香坂（おじき）　ほら、ここをこうして、こんな感じでどうだい？

サチ　おおっ、おじさん、すごい！　めっちゃスタイリッシュ！

香坂（おじき）　まあね。プレゼン資料なんかさ、若いころにバカスカ作ってたんでお茶の子さいさいよ。

サチ　さっすが、おじき！

香坂（おじき）え、おじき？

サチ　そうです、おじき。最近ヤクザもののドラマにハマってて。おじきって呼ばしてつかぁさい。

香坂（おじき）まあいいけど。

サチ　おじき、ありがとうございやす、また明日です！

優太　こうしてねえちゃんと香坂は、終業後に毎日休憩室に集まって、資料作りをすることになった。

サチ、ノートパソコンを持って退場。

香坂（おじき）、その背中を苦笑しつつ見送って、退場。

優太　やがて二人は、仕事終わりに食事に出かけたり、休日に待ち合わせて遊びに行くようになった。

ねえちゃんはその話を、楽しそうに僕に話してくれた。

その年の秋、ねえちゃんは母さんに「友だちと行く」と嘘をついて、香坂と、一泊二日の京都旅行に出掛けた。

サチと香坂（おじき）、登場。

京都駅2番線ホーム。

ＳＥ　ホームの雑音。

サチと香坂（おじき）、乗車位置に並んで立つ。

サチ　見て見て、向かいのホーム、０番線だって。

香坂（おじき）よく気づいたね。京都駅には1番線が無いんだよ。それと、もう一つ。京都駅の０番線のホームは、日本一長いホームだと言われていてね、その長さは５５８メートル。

醍醐駅の焼肉屋「焼きや醍醐」。

ＳＥ　焼肉店の雑音。

サチと香坂（おじき）、テーブルを挟んで向かい合って座る。

サチ　私ホルモン食べたい。ホルモン、ホルモン。

香坂（おじき）はいはい。じゃあホルモンから焼こうか。

サチ　やったー！

香坂、左手でトングを持ち、ホルモンを焼く。

サチ、香坂の左手を見つめている。

優太　香坂は左利きで、薬指のつけ根には小さな黒子があった。ねえちゃんは、その黒子を銀の指輪で隠すのは自分でありたいと、顔を赤らめて言った。

ホテルの部屋。明かりが絞られていて薄暗い。

ベッドに腰掛け抱き合うサチと香坂（おじき）。

二人は見つめ合い、香坂（おじき）がサチをゆっくり押し倒していき、暗転。

優太の声　香坂は既婚者だった。そのことを、同僚との会話で偶然知ってしまったねえちゃんは、会社を二日休んだ。

明転。

名古屋の実家にあるサチの部屋。

サチ、顔を覆って泣きじゃくる。

優太、サチの背を撫でる。

サチ　もうやだ。消えたい。消えちゃいたい。

サチ、顔を上げ、優太を見て、

サチ　生理がもう、二か月来ないの……。

優太　（語りとして）この時だ。僕の中に、最初の火種が生まれたのは。そしてその火は、自分でも止められないほど、みるみるうちに全身に行き渡り、僕は、燃え盛る大きな炎の塊となった。

笑顔生命の名古屋支店前。

ＳＥ　街の雑踏。

フードを目深に被った優太、物陰に隠れている。

社員の声　お疲れさまでした。

香坂（おじき）、登場しつつ、

香坂（おじき）（背後へ）はーい、お疲れさん。

優太、包丁を取り出して香坂に向かって駆けていき、香坂の腹に包丁を刺す。

香坂（おじき）ぐっ……ああ……。

香坂（おじき）、倒れる。

優太、その場に立ち尽くす。

サチ、登場しつつ、

サチ　（背後へ）お疲れさまでした。

サチ、倒れた香坂と手を血塗れにした優太を見つける。

サチ　優太……？　おじき……。

サチ、過呼吸を起こしてその場に倒れる。

ＳＥ　警察と救急車のサイレンの音。

優太　（語りとして）ねえちゃんは、血塗れの僕たちを見たショックで赤ん坊を流産した。僕は逮捕され、殺人未遂で懲役五年の実刑判決を受けた。一連の事情は名古屋支店中に広まり、居場所を失

ったねえちゃんは、東京に転勤することとなった。

刑務所内の面会室。

サチとサチの母、アクリル板の手前（上手）の椅子に腰掛けている。

優太、アクリル板の奥（下手）の椅子に腰掛けている。

お嬢、上手から登場し、

お嬢　あたしがね、あの時生まれた、一番初めの人格。あたしきっと、あの時さっちゃんのお腹にいた赤ん坊なんだわ。わかるの。ママを守らなきゃって、あたしずっと、心のどこかで思ってる。悲しいことぜんぶ、あたしが引き受けてあげるから、だからどうか、ママには笑っていてほしいって。

おじき　次に生まれた人格は俺だよ。さっちゃんからしたら、二度と見たくない顔かもしれないんだがね。それでも、たぶん、さっちゃんが求めていたから俺は生まれた。ならばどこまでも、さっちゃんを支えようって思った。香坂純二が成し得なかったこと。さっちゃんが求めてくれる限り、ずっと傍にいて、さっちゃんのために生きること。

お嬢　あたしたちは、さっちゃんを幸せにするために生まれたの。あたしと、おじきと――

お嬢、サチの両肩を掴み、

お嬢　さっちゃん――あなたは。

サチ　わた、し？

ポチニャン　にゃわん。

おじき　そうだよ。三人目に生まれた人格、それがきみだ、さっちゃん。

サチ　わたし、も……人格？

サチの母　さっちゃん、どうしたの？

優太　ねえちゃん……。

ＳＥ　サチの仕事用スマホの着信音（マナーモードのバイブ音）。

サチ、ズボンのポケットからスマホを取り出し、画面を見て、（ワトソンの名が表示されているの

で）ハッとする。

サチの母　（外の刑務官に聞こえないかと焦って）さっちゃん、スマホは持ち込み禁止って――

サチ　わかってる。

サチ、電話に出て、

サチ　もしもし。

ワトソン、登場。

ワトソン　吉岡さん、渡瀬です。あの……。

サチ　よかった、無事で。電話待ってたんだよ。

ワトソン　すいません。

サチ　え、しおらし。ワトソンぽく無い。

ワトソン　いえ……すみませんでした。ネオＡＩ社を出た後、僕、居たたまれなくて、勝手に通信切っちゃいました。スマホの電源も切りました。吉岡さんは何度も電話を掛けてくれてたのに。

サチ　いいよ別に。気にしてないよ。

ワトソン　僕、怖かったんです。僕の秘密を知った吉岡さんが――。

サチ　誰にも言わない。命かけて誓う。

ワトソン　いいえ、そうじゃありません。僕、吉岡さんに嫌われてしまうのが怖かったんです。だって、気持ち悪いでしょう？　僕、自分が男か女かわからないんです。どっちになれるのか、どっちになりたいのか。だから、吉岡さんに何か言われる前に、通信を切りました。すいません。いつも生意気なことばかり言うくせに、こんな臆病で、馬鹿みたいで、笑っちゃいますよね。

サチ　……ううん、笑わない。臆病でも馬鹿でもないじゃん。今電話、掛けてくれてるでしょ。

ワトソン　はい。気づいたんです。吉岡さんは、僕が普通じゃないからって、僕を避けたりしない。誰かに言いふらしたりもしない。だから僕……吉岡さん、お土産、貰いに行ってもいいですか。

サチ　ワトソン……。

ワトソン　僕、吉岡さんちまでお土産貰いに行きます。だから、東京に帰ってきてください。名古屋に出戻

りなんて嫌です。

サチ　……出戻り？

ワトソン　黒川課長から聞きました。吉岡さん、名古屋で新幹線降りたって。わかってます。吉岡さん、僕に秘密を知られてしまって、東京に戻るのが嫌になって、それで、途中の名古屋で新幹線を飛び下りたんでしょう？

サチ　（言い方が気になり）飛び下りたって……（嘘をついて）いや、味噌カツサンド買おうとして新幹線降りたら、そのまま置いてかれちゃってさ。

ワトソン　へ？

サチ　わかった、帰る。今すぐ帰る！　じゃ。

ワトソン　あ、待って待って。

サチ　何？

ワトソン　忘れてください、その……さっきの。

サチ　さっきのって？　（ワトソンの真似をして）帰ってきてください、出戻りなんて嫌です。

ワトソン　ちょっと！

サチ　あはは！　しばらく忘れらんないな、こりゃ。

ワトソン　言いふらしたら許さな――

サチ　じゃ、そういうことで。

ワトソン　ちょっ――

サチ、通話を切る。

ＳＥ　通話を切る音。

ワトソン、退場。

サチ、母と優太へ、

サチ　私帰んなきゃ。大事な後輩が待ってるの。（優太へ）また来るね。会えてよかった。

優太　次に会うときも、ねえちゃんは、ねえちゃんのままだよね？

サチ　うん。どんな私も、みんな、みんな……。

サチ、お嬢とおじきとポチニャンを見回して、最後に優太へ、

サチ　愛してるぞ、弟よ。（母へ）ママ、駅まで送ってって。さ、行こう。

サチ、サチの母、お嬢、おじき、ポチニャン、退場。

優太　うん。僕も愛してるよ、サチねえちゃん。

暗転。

明転。

サチの部屋（ワンルームの社宅）。

（サチと香坂が初めて会った夕方のように）夕日が射し込んでいる。

キャリーケースを引いたサチ、登場。

サチ　ただいまぁ。

お嬢、おじき、ポチニャン、登場。

お嬢　おかえりなさい。

おじき　おかえり。

ポチニャン　にゃわわん。

サチ　さてと、可愛い後輩に一報入れときますか。

サチ、仕事用スマホで電話を掛ける。

ワトソン、登場。

ワトソン　吉岡さん？

サチ　どもども、帰ってきたよ。

ワトソン　おかえりなさい。

サチ　ただいま……です！　（照れて）なーんて。

ワトソン　あの僕、言い忘れてたんですが、僕も言いませんから、吉岡さんの秘密。

サチ　うん。

ワトソン　何も聞かなかったことにします。

サチ　うん。私も何も聞かなかった。

ワトソン　はい。

サチ　（ベランダを見て）あ、ヤバ。私タオル干しっぱなしだった。

サチ、窓を開ける。

ＳＥ　窓を開ける音。

サチ、ベランダに出て片手でタオルを取り込みながら、

ワトソン、見て。夕日が綺麗。

サチ　夕日？

ワトソン　うん。なんか、醤油漬けの卵黄みたい。ご飯に乗せたぁい。あー、お腹空いたぁ。

サチ　味噌カツサンド食べたんじゃないんですか？

ワトソン　（嘘を後ろめたく思いつつ）あ、いやぁ、実は食べてなくってぇ。ママにあげちゃったんだぁ。

サチ　え、それ買うために、わざわざ名古屋で新幹線降りたんですよね？

ワトソン　あー……（わざとらしく大きな声で）ハハハ！　そうだったかなあ？　覚えてないなあ！　あ……（声を潜めてわざと話題を変えて）駄目だ、この話おしまい。私の部屋ね、社宅なんだけど、上に怖い人住んでるの。ちょっとうるさくすると、すぐ床ドンしてくるんだよ？　ほんと嫌い。

サチ　アハハ。

ワトソン　そりゃよっぽど、うるさいんですね。

ワトソン、自室のベランダへ続く窓を開ける。

ＳＥ　窓を開ける音

サチ、真上の部屋でベランダの窓が開く音がして、ちらっとそれを気にする。

ワトソン　ほんとだ、綺麗な夕日。

ワトソンの声が電話からも上のベランダからも聞こえて、サチ、訝しむ。

ふと見ると、お嬢、おじき、ポチニャンが上を指差して微笑んでいる。

サチ、ワトソンが真上の部屋に住んでいると気づく。

サチ　（上のベランダに聞こえないよう声を潜めて）ねえワトソン、前言撤回。私、上の階の人、嫌いじゃないや。

お嬢、サチに歩み寄り、ぎゅうっとハグをして、退場。

おじき、サチに歩み寄り、頭をぽんぽんと撫で、最後にハグをして、退場。

ポチニャン、サチと見つめ合い、犬のような猫のようなお面を取る。そして、女性（本物のサチ）に変わる。

本物のサチ　さっちゃん、あなたのおかげで私、勇気を持てた。この世界でまた、生きていく勇気。あなたのこと、ずっと見てたよ。弟を、母さんを、みんなを、私を……救ってくれて、ありがとう。

本物のサチ、サチを包むようにハグをする。

サチ、微笑みの表情で目を閉じ、抱き締め返す。

暗転。

サチ、退場。

明転。

本物のサチ、サチの立っていた場所に立ち、ワトソンと通話が繋がったスマホを耳に当てている。

（人格統合が行われて、他の人格たちは本物のサチに統合された。）

ワトソン　もしもーし、もしもーし。

本物のサチ、ベランダから身を乗り出し、上の部屋を見上げて、

本物のサチ　もしもーし！

ワトソン　えっ？

ワトソン、顔を覆う黒い布を取り、下の部屋のベランダを覗く。

本物のサチ　よっ。

本物のサチ、片手を挙げる。

リモートワークの朝礼風景。

本物のサチ、黒川、ワトソン、社員の男1、社員の男2、社員の男3がそれぞれ自分のパソコンに向き合っている。

ワトソンはもう、顔を隠していない。

黒川　みんな、おはよう。

本物のサチ　（超元気に）おはようございます！

ワトソンと社員の男たち　（それぞれに）おはようございます。

黒川　突然呼び出してごめんなさいね。急な出張案件が入っちゃって。行き先は福岡なんだけど。

本物のサチ　福岡ですかぁ。美味しいもの多いですよね。博多ラーメン、明太子、もつ鍋。

ワトソン　海鮮もうまいらしいですよ。

黒川　来週の月曜日から一泊二日、誰かお願いできない？

本物のサチとワトソン　（同時に）行きます！

黒川　あら……二人。予算の上限もあるし、どうしようかしら。

本物のサチ　（断ろうとして）あー、じゃあ私……。

ワトソン　ちょ！　っと待ってください。（キーボードをカタカタ打って）ありました。東京から福岡までの航空券、二人分で往復二万一〇八〇円。

本物のサチ　格安じゃん。ホテルは？

ワトソン　素泊まり、一泊二日、シングル二人分で七八〇〇円。

本物のサチ　さっすがワトソン！　怖いくらい安い！

ワトソン　黒川課長、判定は？

黒川　……ＯＫ、きっちり予算内。二人の出張を許可するわ。……いってらっしゃい。

社員の男１　お気をつけて。

社員の男２　お土産待ってるよー。

社員の男３　いってらっしゃい。

本物のサチとワトソン　（互いに目配せをして）いってきます。

黒川、ワトソン、社員の男１～３、退場。

サチの部屋（ワンルームの社宅）。

本物のサチ　あ、そうだ、忘れてた。

本物のサチ、キッチンに行って冷蔵庫から煮玉子の入ったタッパーを取り出し、私用スマホのカメラで写真を撮る。

ＳＥ　スマホカメラのパシャ音。

本物のサチ　（写真を確認して）うん、いい感じ。母さん、何て言うかな。

本物のサチ、写真を母へと送る。

直後、電話が掛かってくる。

ＳＥ　サチの私用スマホのポップな着信音。

本物のサチ　わ、早っ。（電話に出て）もしもし、母さん？

サチの母、登場。

サチの母　ごめんね、さっちゃん、お仕事中に。

本物のサチ　ううん。

サチの母　煮玉子、美味しそうね。

本物のサチ　ありがと。昨日の夜、作ったんだ。母さんがこの間送ってくれた、名古屋コーチンの卵で。

サチの母　さっちゃんはお料理上手ね。母さんも食べたい。

本物のサチ　今度帰ったときにね。優太にも持ってけるかなぁ。

サチの母　うーん、手作りの食べ物は差し入れできないのよね。

本物のサチ　じゃあ出所したら。

サチの母　ええ、喜ぶわ。……さっちゃん。

本物のサチ　なあに、母さん。

サチの母　さっちゃん……ごめんね。ママって呼んでくれていいの。母さんじゃなくてもいい。どっちもさっちゃんだもの。みんなみんな、私の大事な子なんだもの。こんなことに気がつかないなんて。ごめんね……母さん今までずっと、さっちゃんのこと傷つけてた。ごめんね。

サチの母、すすり泣く。

本物のサチ、電話越しに母のすすり泣きを聞いて、

本物のサチ　大丈夫だよ、わかってた。母さんが……

サチ、登場。

サチ　ママが……

お嬢とおじき、登場。

本物のサチ、サチ、お嬢、おじき、同時に、

本物のサチ　私たちのこと

サチ　私たちのこと

お嬢　あたしたちのこと

おじき　俺たちのこと

サチ　愛してくれてるって。

サチ、母に近寄っていき、母を抱き締める。

お嬢とおじき、サチとサチの母を優しく見つめ、そっと退場。

サチ、名残惜し気に母から離れると、客席を向き、笑顔で手を振り、退場。

本物のサチ　（サチに言っているのか母に言っているのかわからない言い方で）じゃあ、またね。

本物のサチ、電話を切る。

サチの母、退場。

ＳＥ　ビデオ通話の呼び出し音。

本物のサチ、パソコンで応答。

本物のサチ　はいはい。

ワトソン、登場。

ワトソン　失礼します。福岡出張の件、飛行機の座席は……並びで取る、でいいですよね？　いや、バラバラの方がよければバラバラでも。僕はどっちでもいいんで。

本物のサチ　じゃあ並びで。

ワトソン　（嬉しそうに）承知です。

本物のサチ　ツンデレだなぁ。

ワトソン　違いますって。

本物のサチ　へへ。あ、そうそう、ワトソン今日のお昼さ、うち来ない？

ワトソン　（とても驚いて）へっ？

本物のサチ　煮玉子、昨日いっぱい作っちゃって。あ、でも待って、おかずはあるけど、ご飯、足りないかも。

ワトソン　ご飯、大量にあります。持っていきますんで。

本物のサチ　よっしゃ。あとね、デザートもあるよ。

ワトソン　なんですか？

本物のサチ　（紙袋を見せながら）こないだ京都の嵐山で買ったたい焼きと……（箱を見せながら）「東京バナナの皮」！

BGM　ハッピーエンドにふさわしい明るい音楽

本物のサチとワトソン、BGMの後ろで、

ワトソン　でた、「東京バナナの皮」。それ、出張のときに食べてた〝残り〟ですよね。

本物のサチ　うん、余っちゃって。

ワトソン　それと、たい焼きの方、賞味期限ヤバくないですか？

本物のサチ　ヤバいかなぁ？

ワトソン　出張の日からもう一週間経ってますよ。

本物のサチ　だってワトソン、うちまで貰いに来るって言ったのに、全然来ないんだもん。

ワトソン　え……ええっ？　それ僕へのお土産なんですか？

本物のサチ　そうだよ。買ってくねって言ったじゃん。

ワトソン　いや、だって、ほんとに買ってきてくれるなんて……貰いに行くってのも、だって……。

本物のサチ　うそうそ、責めてないって。それに、賞味期限は今日なんだ。ちゃーんとお土産用の長持ちするやつ買ったから。ね、セーフでしょ？

ワトソン　そうですか……よかった。

本物のサチ　（少し照れて）だから〝今日〟、うちに呼んだんだよーだ。じゃ、またお昼にね。

サチが通話を切ろうとするのでワトソン、慌てて、

ワトソン　あ、待って、吉岡さん。

本物のサチ　ん？

ワトソン、真剣に心から、

ワトソン

お土産買ってきてくれて、ありがとうございます。

完